

れいわ ねんど けんきゅう
令和8年度の研究テーマ

『^{じどうせいと}児童生徒^{じっだい}の実態・^{しえんとう}支援等^{きょうゆう}の共有～「^{たいわ}対話^{とら}」で^{じっだい}捉える^{しえん}実態や支援について』

昨年度に引き続き今年度も『児童生徒の実態・支援等の共有～「対話」で捉える実態や支援について』をテーマに研究をしてまいります。昨年度の児童生徒対教員の対話から児童生徒同士の対話へ発展し、受動的な研究ではなく児童生徒の成長や今後の支援の活用に繋げる主体的な研究を目指します。一般的な「対話」の機能とは、お互いが相手の考えを受け取る性質をもち、自分や相手が考えを変える(変わる)ことを前提に行われます。本校では、言葉だけのやり取りに限らず、相手に向けた言動すべてを「表出」とし、教員や友達とのやり取りの積み重ねを「対話」と捉えます。そして、教員や友達とのやり取りの中で本人の変化や学びを「対話的な学び」とします。

ほんこう　じどうせいと　たいわ
○本校の児童生徒にとっての「対話」

ほんこうじどうせいと たいわてきまな とら
○本校児童生徒にとっての対話的学びの捉え

・「対話」

言葉だけのやり取りに限らず、相手に向けた言動全てを「表出」と捉える。



そして、教員や友達とのやり取りの積み重ねを「対話」と捉える。

さまざま おも

様々な思いをもつ児童生徒（主体）が、

自分自身や学校生活、学習活動、教員や友達

(=環境や人を含めた他者)との

ちが　り　か　い　あ　きょうりよく
 違いやずれを理解し、すり合わせたり協力したり

しながら(=対話しながら)学ぶ。

たいわ　よ　と　かつよう
○対話を^よ読み^と解いて活用^{かつよう}していくために

～ロイロで^み見た^{たいわ}対話を、どこから^{みなお}見直すか^{かんが}考える～

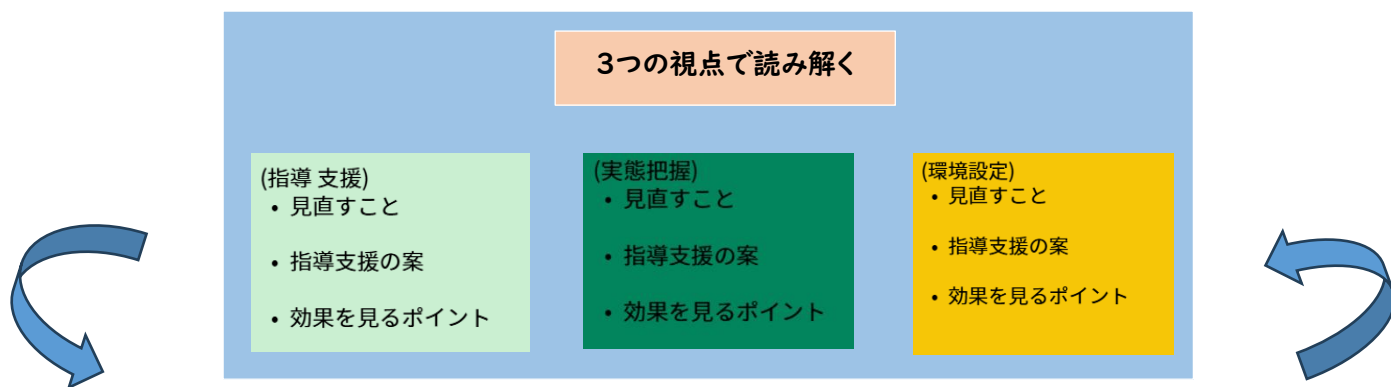


対話を記録して終わらず、
次の授業・生活場面の支援へ活かす

- ・ロイロの付箋は、児童生徒の表出・思い・支援を見える化するための「記録」。
- ・循環モデルは、その記録をもとに「何を見直すか」を考えるための「振り返りと改善の枠組み」。
- ・今年度は、次回までに試す手立てを1つ決め、結果をまたロイロに追記する。

一言でいうと
「対話を通して、実態把握を更新し続ける研究」

〇対話を読み解くための研究手順



効果測定

- ① 分類: 注目、逃避・回避、要求
感覚・児童強化
- ② 気づき
- ③ 実施した支援
- ④ 効果

実践

〇記録の例

(指導・支援)

- ・見直すこと
- ・指導支援の案
- ・効果を見るポイント

(環境設定)

- ・見直すこと
- ・指導支援の案
- ・効果を見るポイント

(実態把握)

- ・見直すこと
- ・指導支援の案
- ・効果を見るポイント

研究日②

< 対象: > 対象: >

股に手を入れる

落ち着きたい

言葉がけをする

手をだしてほしい

基本やめない

落ち着く

手を離そうとする

やめさせたい

他害

邪魔された

(実態把握)

- ・見直すこと
- ・指導支援の案
- ・効果を見るポイント

どういった場面でも股に手を入れているかを把握、記録する。

・指導支援の案

行動分析をする(記録)

・効果を見るポイント

行動の要因を知る

効果測定

- ①分類: 注目、逃避・回避、要求、**感覚・自動強化**
- ②気づき(対話からわかったこと)
待ち時間が長いと問題行動が起こる。活動中や教員とのやり取り中は少ない
- ③実施した支援
待ち時間を短くする。待機中に手を使う課題を用意する。次の課題を視覚的に示す
- ④効果
股に手を入れる回数が減った/変化なし

←情報共有で使用しているロイロノート上でのシート。

・表出や行動、児童生徒の思いなど

・支援・指導、支援指導の意図

・簡単な目標

をそれぞれ色分けした付箋に記入して貼り付けます。

3つの視点を元に①～④の効果測定、実践につなげて

いきます。試行錯誤を繰り返し対話を読み解きよりよい

支援につなげられるよう研究をしていきます。

研究研修係

〇小学部 百瀬 佐藤(記) 高山 上田 〇中学部 飯沼 清水 〇高等部 実松 樋口 藤森 杉本 森田